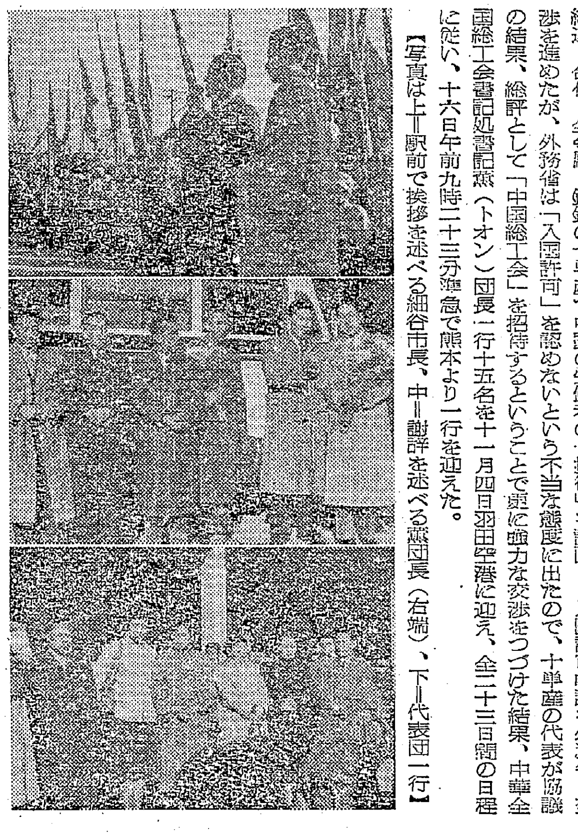
日中友好のミゾは政府
中国は貿易のぞむ
中國総工会から十五名来牟

中国と日本の労働者の「産業別交流」を目的として日教組、全逓、自治労、国鉄、電通、炭労、私鉄総連、合化、全金属、鉄鋼の十単産で中国の労働者の「招待」を計画し、入国許可申請を外務省と交渉を進めたが、外務省は「入国許可」を認めないという不当な態度に出たので、十単産の代表が協議の結果、総評として「中国総工会」を招待するということで更に強力な交渉をつづけた結果、中華全国総工会書記処書記董（トオン）団長一行十五名を十一月四日羽田空港に迎え、全二十三日間の日程に従い、十六日午前九時二十三分準急で熊本より一行を迎えた。



【写真は上＝駅前で挨拶を述べる細谷市長、中＝謝辞を述べる董団長（右端）、下＝代表団一行】

心温まる歓迎です

駅頭にはスト中の三楽労組をはじめ大地評傘下の各単産代表、日中友好協会、その他約二千人が出迎えた。林立する赤旗と労働歌は如何にも労働都市大牟田の秋季闘争の闘いの盛り上りを象徴した感があった。多数歓迎の中に市長、日中友好協会から花束が贈られ、細谷市長は「これを機会に日中両国の友好と提携を深めたい」と歓迎の辞をのべれば「今日は風の冷たい日だが私の心は皆さんの歓迎で非常に暖くなりました」と董団長が挨拶を送れば出迎えの人々はほゝをほころばせ一斉に拍手を送る。

代表団一行は市長の案内で市庁舎にむかい細谷市長より市政概況の説明を聞き

大牟田は産業、労働都市として三池港を利用し日中友好を進めたい。明年四月予定している市政四十周年記念博覧会には、是非中国館を設けたいので協力ねがいたい。

と市長がのべれば

市長先生のお気持ちに対し心から敬意を表し、できるだけの協力をしたい。

と董団長が答える。説明終了後、市長秘書の案内で屋上より市街の説明を聞き記者会見にうつる。

生活はウント向上

中国の労働事情の質問について

中国では労働者階級が権力をにぎり、政府を構成しているのでその政策は人民の生活を豊かにするため、計画的に生産を高めている。労組はこの政策を実行し、政府を監督する立場にある。現在実施中の五カ年計画では労働者の賃金を三十三％増加することをきめ、今年はすでに三十三、五％の賃金増加を実現した。

中国の経済について

中国では農業国から工業国への発展の途上にある。すべて計画経済を各分野に実施し、物価は解放の年からずっと安定している。購買力は一九五二年に比較して約四十％増加しており、五五年にはそれより四％あがり、ほとんどの労働者が自転車、ラジオ、腕時計が買えるようになった。ヨーロッパの水準にくらべるとまだ低いが昔のことを思えばすごい向上だ。衣類はまだ綿製が多いが毛製品も使用され、衣、食、住の生活には問題はない。

中国の婦人は化粧しないのか

中国の婦人は化粧しないということを、お国（日本）ではいわれているが、化粧をしてはならないという規則があるわけではなく、それは個々の婦人の問題でこんどの一行の中にも化粧している人もあれば、いない人もある。要はその人の好みだ。

日中貿易について

中国は日本と貿易をやりたくてやりたくてしようがないのであって中国自身よりも問題はお国（日本）の政府にあるようです

緑ケ丘では
主婦と懇談

予定より三十分遅れて午後十一時三鉱、東圧、三染の各工場および三池工高、延命中学、銀水小学の四班に別れて視察にむかった。三鉱は宮川組合長の案内でトオン団長、北京市工会連合会副秘書長ワン・インサ氏（婦人）炭鉱工会組織部長シエヌ・チシエヌ氏、通訳アイ・チ氏、通訳チエヌ・フエヌ氏（婦人）の五氏がニュースカーに同乗天領病院、三川坑坑外施設港務所、緑ケ丘社宅を視察した。炭鉱工会の申さんは

私は東京に着いていらい今日の日を指折り数えて待っていた。坑内に降れぬのが残念だ。

いま中国には六十四万の炭鉱夫がいるが、日本に比べると人口・国土の広さからいってもっと多くいてもよいものだ。近く年間一億トン出炭を計画する。埋蔵量は見当がつかない。進んだ炭鉱を見学させて頂き本当に愉快だ。

と非常に嬉しそうであった。

緑ケ丘では丁度かえで分会の主婦会の役員会があっていたので集会所に行き、学校問題についての質問に

中国ではいま日本の大学に当るものをそれぞれの分野で多数つくり、労働者の子弟も四割以上勉学している。

と説明、婦人代表は主婦会の会合にめぐり合せたことを非常に喜んでいた。

両国繁栄の努力を

午後三時から松屋ホールで市長招待のレセプション（歓迎会）が行われ、政界、商工界、労働者団体百六十名の出席で、中央には日中友好のシンボルとして日中両国旗が正面に掲げられ、董団長より細谷市長、坪沼助役、境議長、坂田荒尾市長、大地評に対し記念の刺繍がお土産として贈られ、市長の歓迎の辞に対して、董団長は

日本と中国は近隣であり、また悠久なる交流の伝統があります。しかし、ここ数年人為的妨害で文化、経済交流が押えられ、国交回復も出来ていません。この異常な状態は日本の全国民の心からなるものでないと思います。それは訪日以来十日間ではあるが、お互日中友好についてはほとんど意見が一致しました。両国繁栄の道として、お互に日中友好のもとに経済、文化交流が一日も早く出来るよう努力しましょう。

と挨拶、お互に通訳を通じての談話であったが、それぞれ友好の度を深め、四時四十二分発の西鉄労組特別仕立の急行で福岡に向った。

初冬の陽に

秋さびてはれし神域
盛装の愛孫もおおく
晴衣の娘母とつづくを
垣間見つ吾も人の母

めぐし子にあつき帯しめ
粧いて詣でましを

冬くれば冬におびえつ
越冬のたたかひのさま
見つめつつ暗き日おくる

いつの日か母となる娘よ
この母のこのかなしみを
くりかえすことなすまじき

四方八方こぼれ話

その他大勢モテる

中国総工会の董団長以下婦人二名、男子二名計五名が三鉱の案内する人員となったので、早速天領病院から順次案内することにしたが、道中の施設も説明した方が好いだろうということで、ニュースカーにお客さん達が乗車して貰い花園次長が説明することになった。そこで会社から借用した外国高級車には、その他大勢組が乗車することになった。中国の人が大牟田に来るという宣伝が行き届いて、高級車に乗っているのが中国の人であろうと、道や社宅でその他大勢が乗っている高級車に手を振る様で「ナアール程日本人と中国人は似ているからナア」と感心していた。

慌てた酒井県議

三川坑に着いた中国代表団とくに炭鉱関係から来ていた申さんは非常な喜び方で、坑外施設をすみからすみまで見て、サテ入浴場でもみて貰うかなと、同行の酒井県議が三川の風呂場に案内すると、同志達が入浴中、酒井県議あわてて「女子は遠慮下さい」といったが日本語が通じず、入浴場を見て婦人代表「アイヤー」

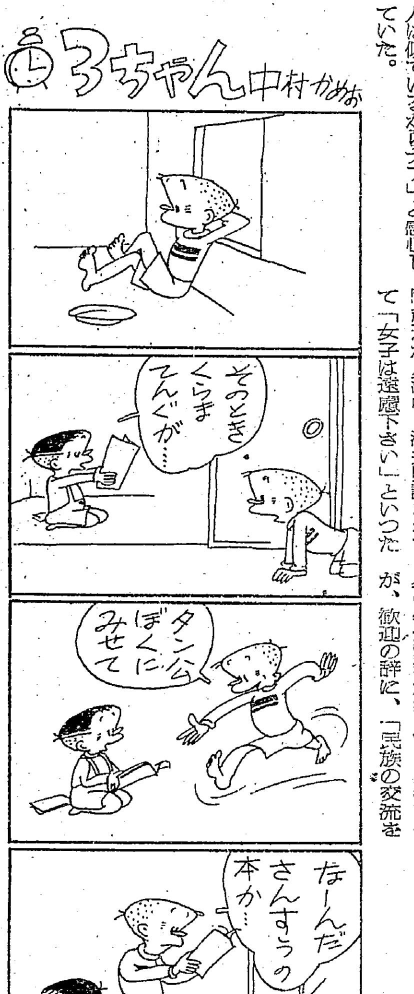
この道ばかりは日中同じだなア。

日中友好協会万才

午後三時からの松屋でのレセプションはおそらく松屋始まって以来の盛況で一六〇名の政界、商工界の名士諸君が集った。細谷市長が、歓迎の辞に、「民族の交流を図り」と挨拶した際、「民族の独立」と出そうであったとは出席者の弁。

又境市会議長が送別の万才の際「日中友好協会万才」と叫び「ウン、議長もえゝとこアルバイ」といった者もいる。

× ×


3ちゃん 中村かめお
そのときくらまてんぐが……
タン公ぼくにみせて
なーんださんすうの本か…
国語

十年史の予約受付

組合結成十周年を記念して編纂された「みいけ十年」は一千百六十余ページの豪華版となって完成しています。上質紙使用のケース入りで非常に好評をうけていますが今回その販布方法が次の通りきまりましたので、希望者の方は次の要領で申込んで下さい。なお見本は委員の方がもっていますので参照して下さい。

○予約申込…各職場
○予約締切…十一月十九日より月末まで
○価格…四百円
○返済方法…一月二百円、二月二百円の分割払い

組合旗を寄贈
入替採用で尾前さん

四山支部尾前助一さん（坑内機械）は停年間近者として、さきごろ行われた第三回入替採用者に息子の燕さんが採用されることになって喜んでいたが、退職してから組合と地域分会にそれぞれ二枚あて組合旗と地域分会旗を寄贈して話題をまいている。

尾前さんは寄贈にあたって、在職中いろいろと組合、地域分会にお世話になり、またこん回は入替採用に息子さんが採用されたことなどで非常に感謝して、お世話になったお礼のしるしとしてこの旗を役に立ててもらいたいと云っていた。最初は引幕をと思っていたが引幕より旗の方が役に立つだろうと旗を寄贈することになっている。なお尾前さんの地域分会は四山社宅福五分会である。

身体障害者
の更生相談

福岡県南筑福祉事務所では来る十一月二十一日、山門保健所（瀬高町上庄）で県下ではじめての身体障害者の更生相談を実施することになりました。対象者はろう者（難聴者を含む）で学令前、学童、中高校生いずれでもよいとのこと。なお相談に応ずる人は県立久留米ろう学校職員で、諸種の相談に応ずることになっています。この種の催しは県下でもはじめてのことであり、かつ当地区では見通しもはっきりしていないので対象者は是非参加されることが望まれています。

× ×

各会場とも超満員
好評だった慰安会

文化資金による慰安会が今年は例年とその趣を大いに異にして、働くものの舞踊劇「カチューシヤ」を招いたことは少からぬ興味を呼んだ。

慰安会は九日間市民会館をはじめ各支部社宅で行われたが、各会場とも一杯の入場であった。加えて同劇団は例年来牟しており、昨年あたりは繰込場や他の職場にも進出したほどだから、他の劇団とちがい温い親密感を感じていた人たちも多く、このためにも盛況のようであった。

各会場での組合員、主婦、家族にこの慰安会の感想を取材してみたら

Aさん（男四十三才）仕事が忙しくてこういうものはめったに見らないが、なかなか上品で子供たちを連れてきてもためになった。会社のはいつもくだらんものばかりやるが、ときにはこういうものもやってもらわんと…

Bさん（女四十才）映画ばかり見つけていますので幕がながくてできまつせん、もう少しおかしくて笑うやつもほしかった。

Cさん（女六十才）なかなか珍らしくてとくに民謡が非常によかった。浪花節も一つ欲しかった。

Fさん（男二十六才）やはりこういう健全な文化行事が組合員のためにも、家族のためにもよいと思う。わけのわからぬショーを呼んでも後味が悪い。

Fさん（女二十二才）民謡もよかったけれども歌謡曲も欲しかった。

等々意見、感想いろいろであるがとにかく「カチューシヤ」の持つ健全な舞踊劇には一般に好意をもって迎えていたようであった。なかには上品すぎるという声もきかれたが。会社の慰安会とくらべてすばらしかったというのが圧倒的なようだ。

（写真は緑ケ丘での公演）